

寺
ごよみ

十月

一日 お講 板屋

教化推進協議会

二日 日曜学校おにぎり大会

野あがり落語会 入船亭

扇好、古今亭朝太、柳家

治の若手トリオ。聞か

せる。面白い！ お代は

ザル。千円余り。開演七

時半。乞うご来場。

一六日 お講 三日市

印度旅行説明会

善巧寺報恩講

一九日 遠夜 午後一時

初夜 午後七時

二〇日 晨朝 午前七時

日中 午前十時

満座 午後一時

説教は本山布教使 浦田秀栄師

二五日 東狐・新浜・報恩講

二六日 板屋・報恩講

三〇日 日曜学校やきいも大会

寺 報

善 巧

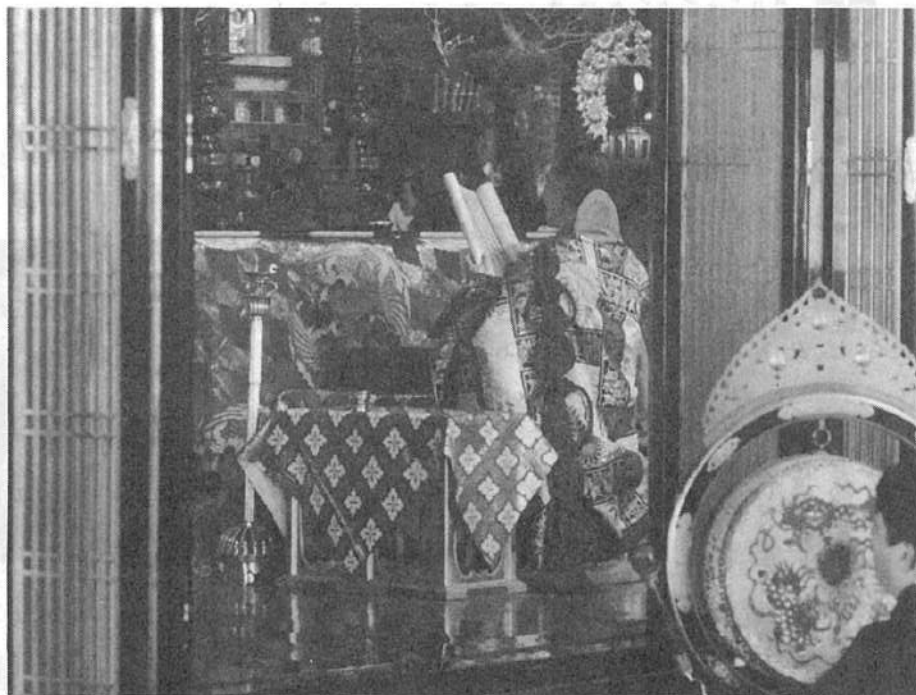
発 行

938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
宇奈月 0765(65)0055

報恩講勤修

布教 本願寺 浦田秀栄師
布教使

十月十九日 遠夜(後一時) 初夜(後七時)
十月二十日 日中(前十時) 満座(後一時)



報恩講のお満座——礼盤上で式文を読む住職

今年も、十月十九・二十の両日、報恩講が勤修されます。満座には、住職は、登高座して厳かに「お式文」をあげます。声張りあげて一年一度の緊張感で、敬って、大恩教主釈迦如来、極楽能化弥陀善逝と、巻物を開いて読誦します。組内の御住職方が、左右に列座してお出ですし、満堂の門徒衆の中です。まことに感慨深い盛儀です。

報 恩 講 式

ぶりに化したまふといへども、真影を眼前にとどめたまふ」とあるところで、私の思い出があります。亡父 前住職は、此処のところで感極まるのでしようか、涙声になるのが常でした。急に声が途絶えるので、一同、ハッとするのですが、有難さの余り、悲泣雨涙の状態になるのでしよう。

明教院の「正信念仏偈聞書」の中に「よりて高祖真影の御影を、末々へ与へ給う正意は、あなたの御安心を我等衆生へそのなりくださるん為に御相を見せたまう」とある件りで「悲泣雨涙あり」と記されています。私も、父の亡くなった輪を既に過ぎて、亡父と似た心境にそろそろ近づいて来たように思います。「いんじ弘長第二みすのへいぬ黄鐘二十八日、前念命終の業成をあらはして、後念即生の素懐をとげたまひき」此の親鸞聖人の御徳を讃嘆するものが、報恩講の本旨です。毎年を論ぜず、善巧寺御門徒の各位は、各地から賑々しく群詣して下さい。此の皆様の御志がある限り、一流の繁昌は間違いありません。農繁期も終わり、今年は豊年満作だと聞いております。一堂に集まって讃嘆の法会を賑々しく繰り広げましょう。

受けた。更に巡讀では、御門主と御一緒の晨朝のお詣りに和讃一句を読誦しました。その時の句が「火宅の利益は自然なる」だったことまで覚えています。此の式文読誦の中で、特に声のトーンを一オクターブあげて読むところが数カ所あります。

住職 雪山 俊之

さて、その道綽禪師のことです。中国において、廃仏棄釋が盛んなる戦国時代に、すすんで仏門に入られたお方でありまして、唐代になつて、ようやく仏教もよう護されるようになり、この期に、中国の仏国は、いわゆる八家九宗といわれるごとく、めざましい発展をとげるのであります。

人間の思想が種々まちまちになり、いろいろな考えが起こつてくる中に、それを統一し体系づけて八家九宗が起りました。ちよつと一般の人が考えると、八家九宗は仏教の分裂でないかといわれますが、そうじゃない。各々が自分の縁をたどつて、宗派を独立させていったということ、仏教が非常に栄えたということなんです。

そういう中で、末法思想が広がってくる。その末法という言葉、を真正面にうけとめられたのが天台大師、それを道綽禪師がうけてくる。それで、末法に必要な仏法はいつた何であるか、禪師は涅槃宗も学び、いろんな宗派の学問もされた。しかし、その禪師が一

番目につけられたのは、一般の庶民、農民とか商人とか、いわゆる権力の外にあって一所懸命に生活に励んでいる人たち、その人たちが、最も気の毒な人たちだ。本当の仏法は、その人たちのために生きなければならぬ。そういうところに着眼されたのであります。不思議と浄土教というものは、こういう考えの下に起こつておるのであります。それで、道綽禪師は各宗派が広がっている中に仏教の体系を大きく二つに分けて、

「聖道門、浄土門」

道綽決聖道難證

とされた。聖道門というのは道綽禪師が学ばれた涅槃經に出てきます。浄土門という言葉は曇鸞大師がおおせられた往生浄土ということばから出るのであります。

この聖道門というのは、自分が学問をし、自分が修行して、自分がつばに専門の仏教の知識を身につけてゆく、そして仏になることを願つてゆく——というものです。

しかし、一般の人たちは、専門にそういうことはできない。勉強したくても、修行したくてもできない。そういう人たちは一体何によつて救われてゆくのか。そういう人たちが救われなければ、おしやかな精神が無になつてゆくではないか、そこに着眼されたのが道綽禪師です。

だからそういう生活の苦しみ、泣き、家庭の問題に泣き、苦勞しながら一生涯、泣き通しておる、そういう人たちは一体何によつてあたたかい、やわらかな心を持つ

唯明浄土可通入

て生きつづけることができるのか、そういう人たちが救われる道が阿弥陀如来の願力によつて打ち建てられた真実の浄土門でなければならぬ、といわれたのが道綽禪師です。これが禪師の教えの根本なんです。

だから、貴族たちはみんな聖道門へ入った。一般民衆はみんな浄土門に入ったんです。これが唐代の最初の仏教のあり方なんです。でありますから、その後日本においても、法然上人が浄土教を起こされたというの、みんな一般民衆のためにであります。でなき

うことが、浄土門の根本的な教えであります。死んでから迎えにきてもらうのではなくて、いまから如来さまに抱かれて、いまからお浄土の道中をして、息が切れたときがお浄土へついたときだ、というんです。はつきりしなさいよ。みなさん。

私は、じつは自分のことをいつてご無礼だが、スペイン風邪が流行ったときに両親と兄弟をみななくしたんです。

その母は非常に「法義をよろこぶ人」でね。私、十二歳でしたが、なくなるとき、母の友達がいうんです。「あんたこんな小さい子を残して、どんなに悲しいことか」

と。そして母がね「いえ、そうではない。私はね、死んで離れてゆくんじゃない。お浄土に生まれさせていただけこそ、私は永久にこの子の中に生きています」といいました。決して別れてゆくんじゃない。いつまでも一緒におられるのが如来さまのご本願に救われたこの道ですというんですね。

そういうことで、私はね、母の顔を思い出すと如来さまの顔になる。如来さまの顔を思い出すと母の顔になる。いまでも家に帰ると本堂の如来さまに手を合わせる。そのとき、如来を拝んでいたら、母親の顔になります。如来さまが立っていて下さる姿をみるとね、母親が小さいとき帰りが遅いと門口に立って待っていた、その姿を思い出します。ああ、如来も私を立って待っていて下さるんだ。長い間ご苦勞さんです。ありがたう。おやすみ。といってやすませていただくんです。むずかしい理屈じゃない。本当に私のようなものが救われる宗教は、これなんです。明教院和上が安樂集を一読、再読、三読して、これあるかなと嘆ずといわれた、あのおことばが、私の身にしみておるところから、このような、お話をさせていたただいたわけでありました。

(五十七年十一月四日)
善巧寺本堂にて

十一月四日、五日 空華忌

講話

行信教教授
高田慈昭師

明教院僧録法師のお祥月の法座です。四日は夜七時半よりお初夜のお座、五日は晨朝(七時)、日中(十時)、満座(二時)の三座。お泊りの用意あり。お誘い合わせ、お参り下さい。



「続・お茶の間」が
北日本「天地人」に

お彼岸の中、北日本新聞の一面「天地人」の欄に、若院の「続・お茶の間説法」が紹介されました。筆者は論説の兼久文治さん。とってもすてきなほめようなので、うれしくなって、ここに再録――

天地人

「他力本願」知っていますか？ よくプロ野球の実況なんかで間違って、タナボタ式に勝ったりしたときに使われている

ですが、そんなじゃないんです。他力本願というのはね……という風に堅苦しい説法をごく日常的な言葉でユ一モアたっぷりに説きほぐしていく。▼そんなユニークなお坊さん、宇奈月町善巧寺の若はん、雪山隆弘さんが、今度、面白く味のある法話をまとめて「続・お茶の間説法」(百華苑刊)を出版した。家庭の親子、夫婦生活から男女問題、スポーツ、笑い、身の上相談……と世相の動きを的確にとらえ、そこからいつの間にか仏の教えを導き出す話術の巧みさは驚くほど。▼「本来の仏法には人間が生きにくいための情報がいっぱい詰まっています。それをみんなでいっしょに確かめたい」という雪山さんは、葬式、法事のイメージを破った、開かれた



盆踊り
ゲートボールだ！
一輪車！
シュワッチ！
ナハハ！
ナンマシダブ

「お茶の間説法」続、お茶の間説法」とともに、二〇〇円。是非、あなたも一冊……。



使っている百二十冊のことはの心理と真理を説いた「さろん・と・説法」いわば現代人生の厳密（しんげん）アフロリズムだ▼たとえは（ひ）の項の「ビジョン」。「理想像」現実には存在していないが、かくありたい、こうしようというもの。近ごろのそれはなぜか小さく、それにひきかえ昔の人のほとつともなく大きい。例えばそれを「彼岸」という。こちらの世界でなく、あちらの世界、悟りの境地、極楽の世界、……一生や二生や三生かけても到着できないビジョンを彼らは胸に抱いて生きた！▼さて、きょうはその「彼岸」の中目。雪山さんもうように「目に見えるもの」が信じられない現代人は今「彼岸」という真実の鏡の前に一度謙虚にたずねてみるのも悪くないことではないか。

善巧寺夏の総代会

8月19日

善巧寺の夏の定例総代会は、八月十九日に開かれ、五十七年度の決算と、五十八年度の予算案を審議しました。この結果、大要の赤字については、寺費据え置きの上で乗り切ることを確認。一方この夏の広間食堂床落ち修復事業については、別途一口千円の協力費を、今度の報恩講まわりで集めさせていただくことになりました。

この日の総代会は定刻十時にはじまり、勤行のあと住職のあいさつ、新総代さんの紹介などがあり、つづいて協議に入りました。

【事業報告】秋の大法要(57・11・3)

11・3(5)▽門徒報恩講(11・10・3・15)▽正忌(58・1・13・16)▽太子会(3・13)▽本山御助成(3・15・16)▽住職女子短大退官パーティー(4・2)▽春の閑法旅行(4・22)▽慶びの春・花の初まり(4・29)▽白鵠会総会・特別法座(6・1)▽野休み落語会(6・5)▽祠堂経(7・14・20)▽本山御助成会(7・14・15)▽夏の夜の泊聞法(8・6・7)▽こども盆踊り大会(8・15)——この他、春に教化推進協議会が発足。夏に雪ん子劇団の父兄による「夢を育てる会」が誕生。さらに各教化団体による多くの事業が行われました。

【決算報告】五十七年度の一般

寺費収入は、五五〇門徒の報恩講まわりで集めさせていただいた総

額、三三六万二六〇〇円と、雑収入、一三万四三三円の合計、三五九万二六四三円。

一方支出は①莊嚴費(予算三〇万)一一万四一〇〇円と少ないのは、仏用品費をすべて三法要会計で賄ったため。②教化伝道費(予算六〇万)六六万四七〇〇円。出版費の増加による。③維持費(一三〇万)門信徒の方が利用される広間食堂の床が完全に腐って危険な状態だったため、急いで修理したので、急

この思わぬ出費が約五〇万あり、その分維持費は大きく予算を上回って一九四万九六五六円となりました。④宗費は別表の通り。

⑤予備費については、先の三法要の赤字補てんとして一四〇万二一六五円を支出。

総額四四二万七三四六円の支出で、結局、八三万四七〇三円の赤字決算となりました。

57 年度 決 算

		決 算	予 算
＜収 入＞	①一 般 寺 費 入	3,362,600	3,200,000
	②雑 収	230,043	
		3,592,643	
＜支 出＞	①莊 嚴	114,100	300,000
	②教 化	664,700	150,000
	③維 持	105,000	150,000
	④宗 務	350,000	600,000
	⑤予 備	209,700	150,000
	⑥出 教	1,949,656	250,000
	⑦法 出	209,700	200,000
	⑧教 法	1,093,750	500,000
	⑨維 持	149,000	300,000
	⑩人 事	423,046	300,000
	⑪雑 費	283,860	200,000
合 計		4,427,346	3,200,000
			△834,703

58 年度 予 算

		予 算
＜収 入＞	①一 般 寺 費 入	3,500,000
	②雑 収	
＜支 出＞	①莊 嚴	300,000
	②教 化	100,000
	③維 持	200,000
	④宗 務	600,000
	⑤予 備	150,000
	⑥出 教	300,000
	⑦法 出	150,000
	⑧教 法	1,500,000
	⑨維 持	500,000
	⑩人 事	300,000
	⑪雑 費	400,000
合 計		3,500,000

寺 費 は 据 え 置 き

別 途 臨 時 工 事 費 一 口 千 円

このため総代会では、この赤字と、さらに法要時の農協からの借入れ金百万円の返済が重つては五十八年度の予算は成り立たないとして、③の維持費の出費、床修理事業については、寺費とは別に、

①莊嚴②教化伝道費は前年度と同じにし、③維持費は一五〇万と二〇万のアップ⑤の予備費に八〇万をとって、これを農協借入金金の返済に当てることに決まりました。

この結果、今年度の門徒報恩講五日の「空華忌」の法要について話し合われ、法座の持ち方については十月一日に開かれる教化推進協議会に一任することになりました。

一口千円の臨時出費として全門徒に協力をお願いすることに決まりました。

【五十八年度予算】以上のよう

な決算をふまえた上で、五十八年度の一般寺費は、平均七千円に据え置くことに決め、支出面では、

【五十八年度予算】以上のよう

な決算をふまえた上で、五十八年度の一般寺費は、平均七千円に据え置くことに決め、支出面では、

【五十八年度予算】以上のよう

な決算をふまえた上で、五十八年度の一般寺費は、平均七千円に据え置くことに決め、支出面では、

富山別院開創百年

昭和59年 5月26日・27日・28日

富山別院
開創百周年慶讃法要

念仏の声を
世界に 子や孫に！

「越中門徒の心よりどころ」として、富山別院は明治十七年（一八八四年）に本願寺説教所から別院に昇格し、爾来約一世紀の間、その役割・機能を果たしてまいりました。

その間、前後四度に及ぶ不慮の火災・

戦火にもめぐることなく、昭和四十一年には現在の荘重な鉄の殿堂として再建をみたのでありますが、これはひとえに宗祖親鸞聖人のみ教えに帰依し、仏法弘まれのし

慶びの法要に浄財を

各位とのお相談を重ねてまいりましたこととあります。その結果、越中におけるお念仏のみ教えの伝統と、先輩・先人のご苦労を偲び、二十一世紀の子々

使命に燃えた先輩門信徒のみなさまのご懇念の賜でしかありません。爾れば、時あたかも明・昭和五十九年は別院昇格以来、満百周年に相当することであり、この記念すべき年をいかに迎えようかについて、昨春より各方面の関係

孫々にまで、み教えの相続がなされるようにとの念願のもと、明・五月二十六、二十七、二十八日、ご門主・前ご門主さまご親修による慶讃法要を厳修し、併せて諸種の記念大会、記念事業を推進することとなり、それに必要な経費の

規模も総額一億五千万円と定められたこととあります。もとより、法要円成のためには門信徒のみなさまの物心両面にわたる多大なるご協力を仰がなければ

本願寺富山別院

平野直義輪番

寺
ごよみ

十二月

ばなりません。

つきましては、みなさまにはこの法要の趣旨をおくみとり下さいまして、何卒、応分のご懇念をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

九月二十日 小雨

彼岸の入りだというのに薄寒い天候で、ポツポツと雨が落ちてくる。今日から長袖の襦袢を着る。

亀の水換えをしてやる。六月の三日市の「じんじん祭り」に二匹買ってきたみどり亀で、小動物の飼育には全く自信のない私だが、飼いはじめて三ヵ月にもなると、自然情が移って、水換えと餌やりは私の仕事となっている。

日溜りに二匹並んで甲羅干しをしている姿など可愛らしいものだし、物音に驚いてあわてふためいて水底にもぐり込む所作など、見ていて思わず笑ったことがある。

午前中は、寺報の原稿執筆に当てるつもり。今度は、十月十九・二十日の報恩講を迎えての原稿。寺報も二十九号。報恩講の記事も七回目だ。今度は何を書くか一苦勞。

十時、音沢から上ゲ法事。一行十名。八十九才のお婆さんと孫達、故人二人の法事に参集である。孫の当主は、自営業。和洋を問わず一切のインテリア工事を引き受けている由。それよりも、此の人には特筆すべき余技がある。黒部奥山の「幻の瀧」や、「羚羊の生態寫真」の撮影で名を成した名カメラマンである。善巧寺の門徒にも、此のように各方面で活躍のベテラ



住職日記

ン多数あつて、住職も鼻が高い。ちなみに、彼は、次女の中学時代の同級生でもある。肩をたたいて、今後の奮闘を鼓舞する。十一時二十分浦山発の私鉄で東三日市に赴く。一週一度のドクター通いである。先週は血圧上昇にて、降圧剤の御厄介になったが、本日は百四十迄下がって心配無用とのこと。患者数少なく、思いの外早く済む。續いて、ロータリーの例会に出席する。此の頃、会員の出席率良好にて、たまに欠席する小生は肩身が狭い。卓話の題目、「二十年後の日本経済」老齡化の進行。女性の職場進出。レジ

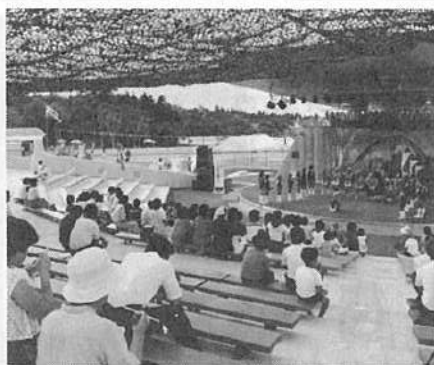
ヤー部門の繁昌其の他、驚くべきことの数々を知らされて、参考になることが多い。三時来客。宇奈月町教育委員会の仕事で、「郷土に輝く人々」と題する小冊子を発行するに当たって亡父もその一人に選ばれ、私に取材に見える。色々とお話をしているうちに、私の知らぬ事を発見する。父が富山中学明治三十二年第十一回卒業であること、同窓に果山良然、野崎吉次、米沢清治其の他、知名の士があること。学術操行優等の故で、賞品として「八大家文」一部を授与されたことなどである。

秋の水底に亀あり 動かざる 亀二つ 日向ぼっこや 彼岸入り

- 一日 お講・下立愛本
- 二日 愛本新・中ノ口・報恩講
- 三日 下村・大橋・報恩講
- 六日 下立愛本・報恩講
- 一四日 赤田・内山・報恩講
- 一六日 お講・浦山
- 一九日 音沢・報恩講
- 二四日 日曜学校もちつき大会
- 三〇日 除夜の鐘 午前零時につきはじめます。近頃はかなりの行列になります。
- 三二日 年の終わりと始まりのけじめにあなたもどうぞ。

雪ん子を育てる会誕生

ことばの教室・雪ん子劇団は、この夏、新世紀博覧会の屋外劇場に出演、ステキな思い出をつくりました。また、それが縁となつて、お父さんお母さんたちが物心



両面のバックアップを―と、集まつて下さり「夢を育てる会」が結成されました。

発起人は、中山慶一さん（富山高教諭）、新保幸夫さん（黒部JC理事）、有馬文義さん（上市病院薬局長）の三人で、会員は四十人。浦山にこどもの文化の花を咲かせるため、ひと肌脱いで下さることになりました。

雪ん子は、これまで、夢を語る会やライオンズのおじさんたち、さらに文化庁の援助などによって運営されていましたが、今回の育てる会の結成で、ようやく足元がかたまつた感じ。

夏の自主公演もすませ、いよいよ

下三日講新世話係

下三日講の善巧寺関係の新世話係が次の通り決まりました。この組織は、真宗門徒の横のつながりを密にした本山護持団体で、御助成会を年二回つとめ、愛山護法に力を注いでおられます。

（音沢）佐々木与作、佐々木繁作、佐々木助一、佐々木虎松、佐々木九郎作、佐々木憲安、（栗虫）川内貞義、（内山）松平源治、（愛本新）野崎吉郎、野崎吉明、野崎与三治、（中ノ口）橋場正一、（下立愛本）清水久一、橋爪栄左夫、（下立）中林久吉、（浦山）中村嘉太郎、菊地

よ十月二十三日には、富山のこどもフェスティバルに出演、三年連続受賞の記録に挑みます。

浜美枝さん講演

夏の夜の一滴聞法―今年は八月六、七日に開かれました。例年の利井明弘師のお話に加えて、今回は女優の浜美枝さんが特別出演。北から南から旅をして歩いた体験談から、女性の生き方にいたるまで、たっぷり四十分の一席。現代人が忘れかけていた、あたたかい心を、思い出させて下さいました。

なお、浜さんは来年一月二十二日からのインド巡洋旅行にも参加される予定です。

野あがり若手落語会も、今年で五回目を迎えます。

おなじみ入船亭扇好さん。おヨメさんが欲しい欲しいといっていました、よう



告知板

よく当たりました！ なんと日航のステューデス。やりましたね。おめでとう。ホヤホヤのお出ましで、どうなることやら。古今亭朝太、柳家治も忘れなく。お代は、例のザル回し。千円余りご用意を。

○寺参りのローソクは、前卓新調以来、十匁の六本立てを使わなくなりましたので、お寺参りの折にはローソクは二十匁を六本ご用意下さい。

○寺参りの焼香は、おつとめが始まったら、順に立ってして下さい。①香台の手前で一礼②さい銭③香をつまんで一回焼香④合掌、念仏、礼拝⑤ちよつと下がって一礼これでけつこうです。まだ二回つまんだり、その手を頭の方へおしいたたりしている人がいますが、ご当流の作法に反しますので、お気をつけて下さい。

○寺参りにかぎらず、自宅の法事でも、おつとめの前に住職が合掌したら、一緒に合掌、念仏、礼拝して下さい。これを抜かしたら、何の法事か、どこの宗派の法事をしているのか、わからなくな

十一月四日、五日

空華忌

講話 行信教教授 高田慈昭師

明教院僧銘法師のお祥月の法座です。四日は夜七時半よりお初夜のお座、五日は晨朝（七時、日中（十時）、満座（二時）の三座。お泊りの用意あり。お誘い合わせ、お参り下さい。

合掌

農繁期は「坊閑期」。そこで各地でお坊さんの研修会が開かれます。本山伝道院で五日間にわたって行われた「布教講座」や、行信教校OBの「安心論題研究会」に出席して、いろいろ勉強させていだきましたが、そんな中で、わあーいいなあ！ と心ゆさぶられた話をひとつ。

東北の山田智海さんというお坊さん、この夏、ある門徒のおばあさんがなくなられて、お葬式に行ったそうです。

式も終わり、初七日の法事もすんで、おときの席についたときのことです。喪主の方がごあいさつに立たれ、こうおっしゃった。

「いま、亡くなった母から電話がありまして、まちがいないお浄土についたから、安心してちょうだい。とのことでありました。母は、お父さんにも進えたし、あとはお前たちのくるのを待つばかり。ともいっていました。みなさん、ご安心下さい。」―素晴らしいあいさつだと思いませんか？

